

廿日市市 シルバーだより

平成26年1月1日 第53号

迎春



編集・発行

公益社団法人 廿日市市シルバー人材センター
廿日市市下平良1-1-5
電話 0829-20-1468 FAX 0829-20-1470
ホームページ <http://www.sjc.ne.jp/hatukaichi/>

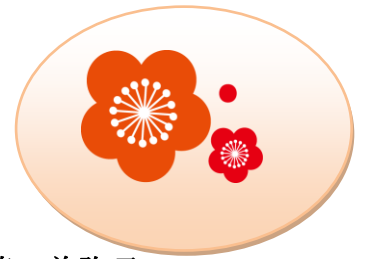
正会員 791人

男性 591人

女性 200人

(25年12月15日現在)

新年のごあいさつ



理事長 岡崎 美弥子

新年明けましておめでとうございます。
 会員の皆様におかれましては、平成26年の新春をご家族揃ってお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、世界中が地球温暖化に起因する異常気象、台風、集中豪雨による土砂崩れ、経験したことのない竜巻など多くの人が過酷な被害に遭われ、まだまだ進まない東北大震災と併せて一日も早い復興が望まれます。

明るい話題では、2020年の東京オリンピック招致が決まり、日本中が喜びに包まれました。皆さんのプレゼンでのスピーチは感動いたしました。

日本の総人口は年々減少しており、一方では75歳以上の後期高齢者は年々増加し、人口の4分の1ないし3分の1を占める後期高齢者の「居場所」、「社会保障制度」をどう確保するかが我が国の大きなテーマとなっております。

シルバー人材センターの会員の入会は、年金の受給開始年齢の延長、雇用延長、介護保険など「法改正」による社会環境の変化とともに、平均年齢70歳以上と大きく変化しております。

今後のセンター運営は、こうした社会環境の変化に応じた就業ニーズ、地域社会の日常生活に応じた就業機会の確保・提供し、併せて高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進を図るべく、地域社会の活性化に貢献していかなければなりません。

現に、全国1300団体、75万人のシルバー会員が今後益々「福祉の受け手から社会の担い手」として元気に働き、医療・介護及び生活保護など我が国の財政負担も大きく軽減し貢献しており、自主事業としての子育て支援等、高齢者の「出番」をつくり地域の人々と助け合い、溶け込んで活動しており、まさに、国及び地方自治体が取り組んでいる高齢者社会対策の大きな柱となって寄与していると言っても決して過言ではありません。

超高齢社会でのセンターの役割は、地域社会の要請に対し、会員各自が誠意ある就業と安全確保を遵守し、明るく活動することが地域社会に信頼され、併せてシルバー事業の発展に繋がることであると確信しております。

関係各位の皆様におかれましては変わらぬ、ご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

本年も皆様の益々のご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



事務局長

高嶋 眞二
 職員一同

理 事 監 事

田	加	佐	北	湊	山	上	佐	中	本	武	石	田	張
代	藤	々	本	崎	口	羽	藤	川	間	田	角	中	間
源	孝	文	賢	義	智	隆	博	尊	孝	英	修	博	洋
一	美	夫	浩	則	恵	子	弘	明	貴	隆	司	隆	司

謹んで新年のご祝詞を申し上げます
 皆様のご健康とご多幸を
 役員一同心からお祈りいたします



平成26年を迎えて

廿日市市長 眞野 勝弘



新年、明けましておめでとうございます。
廿日市市シルバー人材センターの会員の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

また、日頃から、市政の推進に対し、格別のご理解とご協力を賜っておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

昨年、厚生労働省がまとめた「生命表」によりますと、中国5県の市区町村別平均寿命（平成22年時点、121市区町村）において、本市の男性が80.9歳で第1位、女性が87.5歳で第9位と男女とも上位に入りましたことを、大変嬉しく思います。

今後は、平均寿命の延伸はもとより、心身ともに健康で暮らすことに重点を置いた“健康寿命”の延伸に力を注ぎたいと考えております。

シルバー人材センターの皆様におかれましても、健康に十分留意され、生涯現役として就労されますとともに、長年積み重ねてきた豊富な知識や経験を地域のために発揮していただきますようお願い申し上げます。

さて、昨年本市は、昭和63年4月に市制を施行してから25周年を迎えました。

思い返しますと、新庁舎・文化センター建設や市町村合併など、数えきれないほどの思い出が詰まった25年間でした。今後も、『はつかいち』が“笑顔と活力に満ちた元気なまち”として、より一層発展していけるよう、市民の皆様とともに新たな時代を築いてまいりたいと考えておりますので、皆様方のご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、廿日市市シルバー人材センターの益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

廿日市市議会議長 有田 一彦



明けましておめでとうございます。
廿日市市シルバー人材センター会員の皆様並びに関係各位におかれましては、お健やかに平成26年の初春を迎えられましたこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、2020東京オリンピック開催や富士山の世界文化遺産登録、広島ではサンフレッチェのV2など、未来への展望を予感させる嬉しいニュースがございました。廿日市市も市制施行から25年目の節目の年でした。反面、列島各地において自然災害が多く発生し、甚大な被害をもたらしました。廿日市市においても大切な尊い命が失われました。

わが国は少子高齢社会の歩みを進めていますが、団塊世代の大量高齢化に向けた人口バランスの推移は、過去に例のない新たな超高齢社会へとステージを移し、緊急かつ重要な課題となっております。そうした中で、シルバー人材センターの果たす役割は、今後ますます重要になってくるものと思われまます。

市議会といたしましても、シルバー世代の皆様が、健康で楽しく働ける環境整備に努めてまいりますので、皆様におかれては、高齢者の就労機会の拡大と生きがいがづくり、更には活力ある地域づくりのため、長年培われた叡智を年若い者たちにお授けくださり、一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、廿日市市シルバー人材センターが、天馬、空を行くごとく躍動感溢れる年となりますよう、また会員の皆様にとりまして、幸せに満ちた一年となりますよう心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



私も午年（うまどし）



「先ず健康」

友和班 川政 邦雄

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧友和小学校玄関上のバルコニーに大きく書かれた「先ず健康」。本当に先人の心のこもった標語は、84歳と云う年男になっても脳裏から消え去る事はありません。「先ず健康」本当にその標語通り出会う方々の口から75歳になったかい・・・違うちがう38歳、来年は48歳だからまだまだ若いからと！！・・・。会員の皆様のお世話になり乍ら、頑張っって新春を迎えることが出来ました。私のもっとうは、お客様から喜んで戴き再びご指名して戴き、親切丁寧な仕事を心掛け、センターの名をけがす事なく仕上げる事が私の使命だと感謝の日々を送って居ります。最後に会員の皆様のご健勝とシルバー人材センターの発展をお祈り致します。



「6度目の干支」

串戸班 里保 昭輝

新年あけましておめでとうございます。

6度目の干支の午年を迎えます。私は、平成元年から廿日市に住んでおり、定年退職後土日は東広島で農業、林業作業を行っております。健康で過ごすため、又、男性の平均寿命までは元気でいたいと思いシルバー人材センターに入会しました。

しかし2年前、加齢黄班変性になり中電病院で治療しました。その結果、悪化せず、現状を維持しております。シルバー人材センターでの仕事は、剪定作業、除草作業を始めとして、若い時代に経験した仕事を活かして行く、多種多様な仕事があります。私が担当していた蜂（スズメバチ）の巣、駆除作業では、夏場に作業依頼が集中し、危険を伴うので防護服を着て作業するため暑くて、体がくたくたになっていました。近隣のシルバー人材センターでは、蜂の巣駆除作業は行っていません。このため広島、可部、大竹方面からも作業依頼を受けたことがあります。現在は、駐輪場の集金作業を行っております。

これからも、シルバー人材センターの性格『自主・自立・共同・共助』の理念で、共に健康で仲良く働き、会員の皆様の今後のご活躍をお祈りします。



「日々是好」

宮島班 谷 陽右

太閤の松もめでたや島の初春

楊句は今年の賀状の挨拶句である。（ちなみに初春は“はる”と読む）

塔の岡の茶屋の前に、竜のヒゲのように横に長く伸びる松がある。この太閤ゆかりの“龍髯の松”は枝ぶりもよろしく、手入れも行き届いてそれは見事である。また、塔の岡から見下す風景は秀逸で、新春にふさわしい私の好きな宮島の景だ。さて、年の始めにふさわしい琴線にふれるようなお話になりますかどうか、戦中生まれの年男の独り言です。実は、古希を目前に大病を煩い、とある病院の厄介になりました。その折の担当医が有ろう事か、まぎれもない、白衣の天女。若くて、美しい女医さんでした。この幸運に私はもう有頂天、久々にときめきました。遠くに忘れていた青春が甦った。他意はありません。ただ、これだけの話です。戦中派を標榜する我々の青春時代は、まさに、高度成長の真只中にありました。そして、企業戦士とかなんとか揶揄されながら、懸命に生き抜いた半世紀。その間に蓄積された、経験、知識、技能は、現世に至り、あらためて高い評価を得ています。私は、こうした社会の要望に応え、少しでも長く就業するためには、心身を癒し、リフレッシュする。つまり、“遊び心”が明日への活力を生むと考えています。締めの一言、“見せましょう。シルバーの底力を！！”了



本年もよろしくお祈り申し上げます。

夢サロン製作 お相撲さんの綱引き風景

「安全は 一声かける ゆとりから」

安全就業のため、自分の安全は自分で守ることを基本に、他者への注意喚起ができれば事故件数も減るはずですが、平成25年度広島県下シルバーでは、就業中事故発生以上に就業途上事故発生は約40%増加しています。これは、人が持つ心の「慣れ・油断・過信・横着」が要因です。また、私達高齢者特有の抵抗力低下によるノロウイルス・インフルエンザの感染、生活習慣病、熱中症、ヒートショックと環境への対応力低下も要因です。年末年始のあわただしい時期、生活のリズムも変わりやすく、また天候の急激な変化から就業中・就業途上の事故増加が予測されます。

あせらず・無理せず・油断せず・基本に忠実に就業、安全で安心生活を本年も送られるよう祈念いたします。



昨年も除草現場から剪定現場へ ⇒ 安全パトロール ⇒ 安全確認へ！

役員研修に参加して

理事

山口 智恵子

平成25年10月、鳥根県松江市において約200名の参加で開催された中国ブロック役職員交流研修会に、私も理事として初めて参加いたしました。今回のテーマは「会員の拡大」と「機能強化の推進」がメインとされ、特に女性会員の増加が最大の課題です。廿日市市SCも同様ですが、私の第一に取り組む課題は入会説明会の説明だけに終わらず、社会参加の第一歩として活躍する場所を作り、中間を作り、追加的収入も得ることで、健康にもつながることを最大限にアピールしたいと思います。趣味の世界も広がることや地域社会への貢献にもつながることなど「是非入ってください」と熱意をもって伝えたいと思います。また、女性会員の入会促進には、例えば「女性のための〇〇支援講座」の新設などが必要であるとも感じました。続いての浅口市、大竹市、防府市、松江市、鳥取県SC連合によるディスカッション、「ゴールド会員」とは、高齢化してもシルバーセンターに「感謝の気持ちや見守りの気持ち」を持つ会員へのフォローアップであることに、大変魅力を感じました。本シルバーのゴールド会員さんが、是非とも「なごみの会」の行事などに参加され一緒に楽しむことも望んでいます。さらに各市シルバーの取り組みでは、大竹市SCは100円・500円コイン事業を企画提案事業として既に展開されています。本シルバーでは、金額や対象者、またサービス内容など今後も検討を重ねる余地もあると思いますが、市の高齢者担当課を介しての意見集約、また会員のボランティア精神の更なる醸成の必要性など、多くの点で大変参考になりました。一方で、一部のシルバー人材センターでは、地域性を課題として順調な事業展開も難しい点があるとの意見も聞きました。本シルバーにおいても合併による広大なエリアに多様な地域性が存在します。地域とともに発展することが大切です。この度の研修会参加は、新人理事として大変勉強になりました。今後もこうした勉強ができる機会を切望し、また積極的に参加したいと思います。



会員の親睦 就業に意欲ある毎日を！

なごみの会

佐藤 博子

会員のみなさん、役員のみなさんの協力で「楽しい一泊旅行」、「商品めざしてのグランドゴルフ」、「うどん早く売れます様にと環境フェスタ」、「雨の心配をしたあいプラザまつり」などイベントに参加し、天候とお客様の参加を心配しながら無事に終了しました。それぞれの場所、場面での皆さんの笑顔、交流は大きな力でした。また頑張ろうと就業への意欲とつながる事でしょう。健康講座での救命処置の手順（心肺蘇生とAEDの使用手順）は、年1回は受けたいですね。囲碁、将棋大会、会員の作品展、一日旅行などと行事は春に続きます。「シルバーはいろんなことしているんですね」の声に励まされて、自主自立の精神で地域に溶け込み就業の意欲へとつなげていきましょう。

皆様の健康をお祈りしながら、今年もよろしくお願ひ申し上げます



七月 佐伯地域ささえあい



「介護生活を送らない。いつまでも元気でいたい。」そんな人々の為に、平成22年から企画提案事業で「高齢者生活支えあい事業」を行って来ました。事業を始めて25年度が4年目となります。この間事業への参加者は大変多く、約800人を数えました。内容では、高齢者のために3本柱(健康測定、食事、軽い運動&ゲーム)を基本とし、平成25年度は健康測定に(株)イシカワ(いしかわの豆菓子)様に協力をお願いし『骨密度』の測定です。参加者の興味は高く自分のデータを見て、・・・骨年齢に喜ぶ人、心配顔の人・・・と“わいわい、がやがや”の中でも、講師には多くの質問が飛び交う会場でした。

又、運動&ゲームの中では、小学生を対象とした「紙芝居」で「これ何の野菜？」を加えてみました。参加者は、「何十年前が懐かしく、思い出も甦りました。」と小さな声で私に話しかけてくれました。‘そうですか？’と答えてつも・・・見えないところで‘やって良かった’のガッツポーズでした。

さて昼食会はシルバーの女性会員のプロデュースにより、旬の食材を使って高齢者に優しく好まれる物をチョイスした内容で提供しました。

量・質、共に喜んで頂き、みごとな完食ぶり。この完食には、調理・提供する会員にとっては大きな喜びとなり、自信と感謝で満腹です。

4年間を振り返れば反省点も多々ありますが、年々の試行錯誤は自分にとっても、やりがいと楽しい取り組みへと・・・充実感で満たされました。

ご協力を頂いた会員の皆様に感謝します。“ありがとうございました。”

佐々木 文夫 理事

十月 吉和地域ささえあい

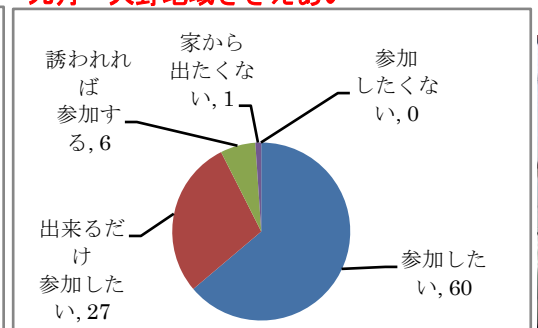
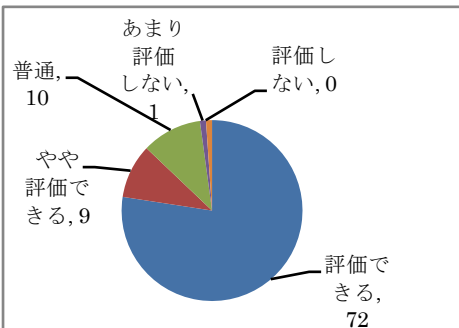


骨密度の測定



十一月 廿日市地域(地御前) ささえあい

九月 大野地域ささえあい



H25年度4か所全体の参加者アンケート結果、134人中94人回答で人員数表記



スタッフ会議風景



イベント参加・奉仕活動・地域貢献など



環境フェスタ 10/6



シルバーの日 10/18



女性部会のリサイクル品在庫一掃セール 10/27

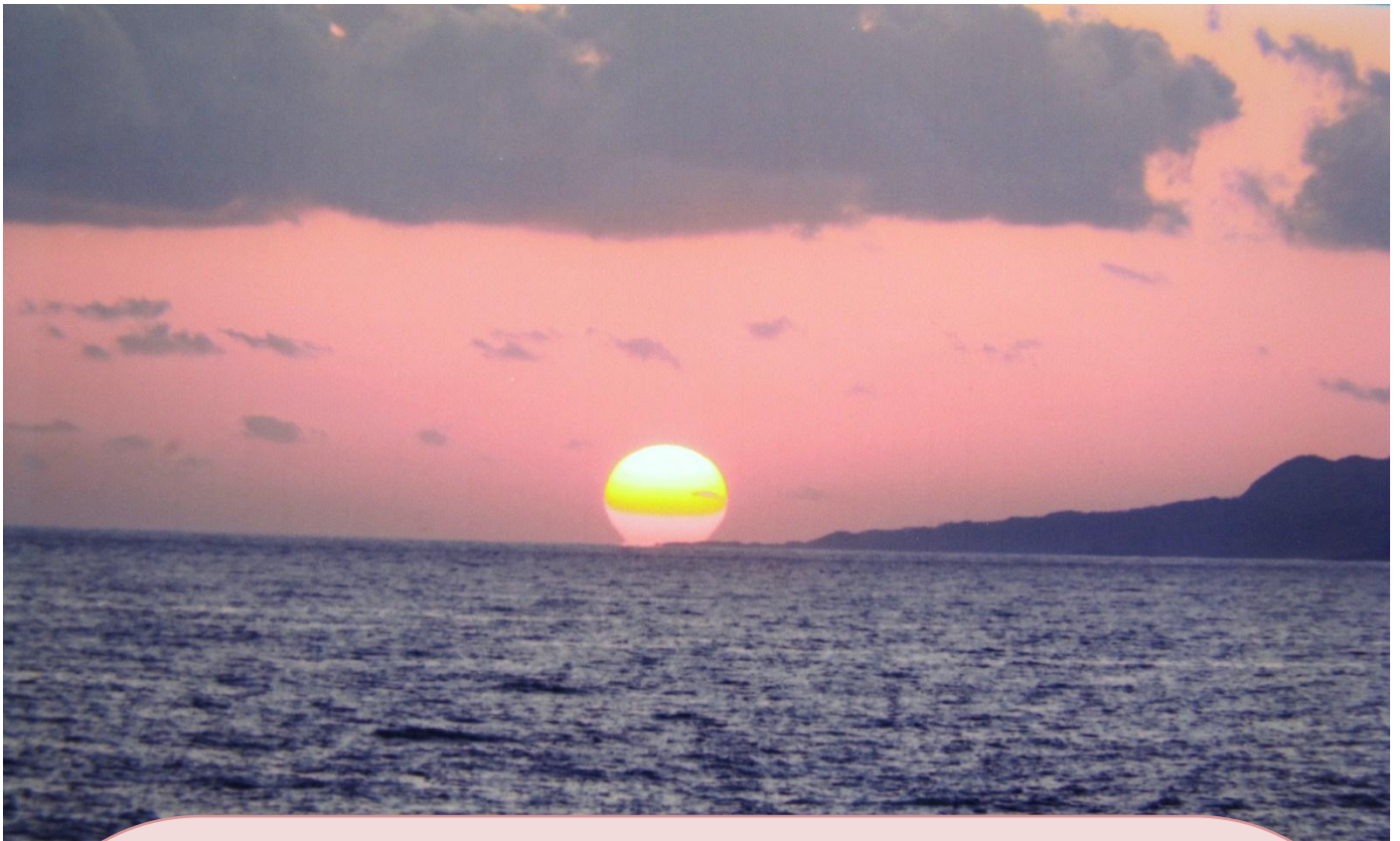
なかよしルーム



あいプラザまつり 11/10



佐伯リサイクルまつり 11/16



平成25年「一つの出来事」を振り返り（事務局ニュース）

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は、大変な猛暑の夏から、秋を体感する間もなく駆け足で冬が訪れ、地球温暖化によるとされる気象の変動には、日本中が悲鳴に近い声をあげました。

そうした中でも、会員の皆様方には体調管理も万全で大過なく就業頂きましたことに、改めまして厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年猛暑の8月、廿日市市内の中学2年生、男女各2名の皆さんが、職場体験で4日間、我がシルバーを訪れました。社会のいろいろな仕事について理解を深める実践的な学習の一環です。まずは、拠点事務局・支所の案内後、エコセンター、公園、駐輪場、市民センター、なかよしルームなど、就業場所となる各種の施設の踏査を終え、いよいよ生徒さんには、暑い最中の仕事現場で働く、除草、剪定、蜂の巣駆除の安全パトロールへ、さらに屋内では入会説明会、就業報告書の整理などの体験です。・・・体験を終えて生徒さんの感想は、現場では「経験を生かし、注意点、決まり事を守り、仕事に真剣に取り組んでいる。」「暑くても依頼された仕事は、やり遂げる。」「若い人に負けない身体の強さと心の強さを感じた。」、また事務局には「書類の整理は、いくら時間がかかり面倒でも丁寧にやる。」「朝礼で三種類のあいさつは、声を出し、明るいあいさつを大切にしている。」、そして全体的には「どんな作業をしている方も、丁寧な対応をしている。」、などなど・・・最後に生徒さんから『会員からの「暑くても依頼された人が喜んでくれるから頑張る。』という言葉は、自分にとって本当に大事な事だと強く思います。』と締めくくってくれました。勿論、シルバーの事務局職員にとって中学生の感想は心強く、改めて会員の皆さんを誇りに思い、胸を張れる出来事でした。

明けて平成26年、干支は午年（うまどし）、十二支では一つの頂点。上昇していたものが下降に、またその逆もある変動の時期・・・とあります。振り返れば、昨年の国の物価目標2%設定や今年の消費増税など、いずれにしても午年は経済的な変化の年でもあるようです。

中学生の言葉が思い出されます。変化の新年を迎えても、幾多の難関を克服してこられた会員の皆様には、常に真剣に、丁寧に、心を込めてやり遂げる「お・も・て・な・し」の精神で、変動・変化の年を乗り切って頂けると思料いたします。

本年も会員皆様のご健勝をお祈りいたします。

また事務局職員一同、何とぞよろしくお願い申し上げます。



背景写真は、中田 満会員（津田班）提供



※表紙 写真 速谷神社

タイトル文字

瀬良 智恵会員（地御前班）